
新軽音戦記けいガンW 《ウイング》

鯖の味噌煮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新軽音戦記けいガンウイングW

【コード】

N6514Q

【作者名】

鯖の味噌煮

【あらすじ】

この小説はけいおん！とガンダムWのクロスオーバー小説です。互いのファンの方々が不快にならないように世界設定はオリジナルにしました。

キャラの容姿設定と一部人間関係は「けいおん！」を、兵器（MS少女）は「ガンダムW」を、名前と口調と性格は二作品をごちゃまぜにしたものです。

名前はニコ動にあったMADの名前を勝手に使わせていただきました（謝）。

キャラ崩壊当たり前の、一人男の娘がいますががんばっていきますので応援よろしくお願いします。

ブログ（前書き）

初投稿で拙い文ですがよろしく願いします。

ちなみにオリキャラは知り合いが容姿と名前を設定してプロフィールを私が設定しました。

3 / 16 勝手ながら一部修正しました。

3 / 20 後書きの紛らわしい部分を修正しました。

それではブログをどうぞ。

プロローグ

かつて、戦争があった。

1つの民族の紛争は、やがて独立戦争にまで発展した。5年にも及ぶ戦争は両者が和平を結び、民族側に独立権を与えられることで終結した。両者の和平には「私設組織ピースミリオン」の活躍があったと言われている。

そして、終結から100年後、平和になった世界を揺るがす大事件が起きてしまう。100年前の戦争で独立権を認められた「サンクキングダム」の王宮が占拠されてしまったのだ。

その戦いは人間同士の「戦争」ではなく、機械でできたモビルドールによる醜い「大量虐殺」であった。その後世界は圧倒的兵力を持つ「マリー・シュナイド」に支配され、絶対統制が始まった。

マリーシュナイドに協力する者だけ自由に生きることが許され、抵抗する者のうち大人は全て根絶やしに、子供は連れ去られ「人類機械化計画」のモルモットにされていった。

世界は1人の男によって崩壊してしまったのだ。

しかし、世界が崩壊してから8年後【A・B・（アフターブレイク）8年】、「私設武装組織ピースミリオン」によって世界は大きく変わり始める。

この物語は世界を大きく変える存在である10人の少女たちと脱走した1人の科学者の始まりとその後を綴った物語である。

プロローグ（後書き）

いきなりですがアンケートをとります。

「けいおん！！」のモブキャラをツムギが指揮を執るマグアナック隊として出したいのですが、誰がいいでしょうか（4人までです）？けいおん！！での登場回も教えてください。

次はガンダム達の機体データを載せようと思います。

読んでいただきありがとうございました。これからもよろしくお願
いします。

機体データ（ピースミリオン）（前書き）

1ヶ月以上待たせてしまつて申し訳ありませんでした。パソコンが故障してしまつてケータイで書いていたため親指が筋肉痛です（笑）。

この機体データにはガンダムWとは異なる意味合いの単語があるので違いを紹介します。ちなみに都合により所属部隊が一部ガンダムWと違います。

モビルドール

MS

自立して動くのは同じだが人間サイズであることとやり方次第では憑依する事が可能であること。

モビルスーツ

MS

服の上に装甲を装着する。イメージとしては一般的なMS少女ではなくニコ動のガンプラMS少女。MSメモリのボタンを押した後専用のコネクト部分に差し込み装着する（仮面ライダーWの変身に近い）。

V字アンテナ

ガンダムについているあれ。元々は情報受信用に付けられていたが、MSとして運用することになった際装着者の思考を電気信号として機体に伝えるためのデバイスに変更された。そのため電気信号を自分でコントロール出来る人間（強化人間etc）が使うMSにはアンテナがついていない。

以上です。他にわからない単語等があれば感想欄に質問をお願いします。

あと話しは変わりますが、今地震で困っている人がたくさんいます。どうせ・・・と感じる人がいると思いますが、やらないよりはマシです。まずは小銭数枚でもいいので募金を試みてください。一人一人の小さな思いと小さな行動で多くの人が救われます。

機体データ（ピースミリオン）

トルギス

カガヤ・セツ専用MS モビルスーツ。サワコ・ピースクラフトが20歳という若さで設計した最初のMD。しかしコストの都合上お蔵入りとなり、これによってトルギスの性能を下げたMDであるリーオーが作られ、その後トルギスの一部性能を上昇したMDとして5機のガンダムが設計される。結局マリー・シュナイド軍のMDとしてではなくサンクキングダムのデータバンクから奪取した設計図を元にピースミリオンのMSとして作られた。ちなみにカガヤ・セツは身体能力のほか電気信号の操作能力を強化された強化人間であるため、トルギスにはアンテナがない。

武装

・ドーパーガン

右肩の固定部分と右手の二カ所で支えて使うトルギス専用大型銃。当初はカートリッジしだいでビームミサイル「通常のビームとは違い線状ではなく玉状」と実弾に切り替えが可能だったが、MSにしたことによりカートリッジを着けるスペースが足りなくなったため、20発撃てるビームミサイルのカートリッジ1個しか作られておらず、一回の戦闘が終わるたびにチャージが必要になっている。

・ビームサーベル

リーオーよりも出力が大きいビームサーベル。ガンダムと違ってビーム部分がピンク色をしている。予備を含めて2本シールドに内蔵している。

・シールド

トールギス専用シールド。左腕に装着されている。リーオーのビームライフル等を弾くことができる。中央に鷲のマークが描かれている。

・スーパーバーニア

MSとなったトールギスに付けられた新装備。高速で飛行できるが、通常の人間なら間違いなく死んでしまう程のGを装着者に与えてしまう。この装備はセツが強化人間だからこそ使いこなせる装備であろう。ちなみにガンダムWのトールギスは常時これで飛行しているが、さすがに常時これだと5分でエネルギー切れになるためリミッターが掛けられている。

アビリティレベル上昇率

スピードアビリティ	+ 40
パワーアビリティ	+ 20
アーマードアビリティ	+ 50

ウイングガンダム

ヒイロ・ユイ専用MS。トリコロールカラーと機械的デザインの翼が特徴。トールギスのビーム射撃性能と飛行性能を強化し、代わりに装甲を多少薄くした。本来は可変MDだったが、MSになったため変形出来なくなった。とは言え可変を外してもリーオーやトールギス（通常）とは桁違いの飛行性能を持っているためあまり問題ではない。

武装

・バスターライフル

左腰に携帯する全長1m程のカートリッジ式大型ライフル。MDの時は3つカートリッジが装備されていたが、3つ分のエネルギーを

1つに合わせる事によってリロードをしなくてよくなり最大出力の威力も3倍になった。が、装着者がヒイロになった為出力調整ができなくなり、結局カートリッジ式に戻された。1つのカートリッジ分の出力で1セットラックを消し炭にできる程の威力を持っている。出力調整ができるようになってからも、ヒイロの希望によりカートリッジ式のままである。

・ビームサーベル

ウイングの主力武器。ツールギスよりやや出力が大きく刃部分は黄緑色。

・ウイングシールド

左腕に装着している大型シールド。変形機構の名残で赤く尖った形はまるで鳥の頭のような形である。打突武器としても使われる。普段はこのシールドの中折れ部分にビームサーベルが予備を含めて2本内蔵されている。

・マシンキャノン

エピオン以外のガンダムに付いている牽制用バルカン。両肩に付いているため格闘戦の際邪魔にならない。

ちなみに全てのガンダムは元々頭部にバルカンが備わっていたがMSになる都合上外された。

アビリティレベル上昇率

スピードアビリティ	+ 50
パワーアビリティ	+ 20
アーマードアビリティ	+ 30

ガンダムデスサイズ
リツ・マックスウエル専用MS。

トルギスの機動性と隠密性が上昇され、格闘に特化しているがウイング同様装甲が薄くなっている。黒い装甲とビームサイズ（後述）によってまるで死神のような姿をしている。ハイパージャマー（後述）を付けた事によって飛行できる程のスラスターを着けるスペースがなくなりホバリング程度しかできなくなってしまった。ただし、機動性と隠密性を上げたこととリツの足の速さによって地上戦において素早く敵地に忍び込み切り掛かることができるようになった。

武装

・ビームサイズ

デスサイズを象徴する武装。死神の大鎌のような形状をしているがビームを出す角度を調節でき、薙刀のようにすることが可能。普段は柄を短くして右腰に装着している。

・バスターシールド

金の十字架の様な模様が入った赤と黒のシールド。射出する事ができ、先端の実体刃が展開するとビーム刃が伸び、敵に突き刺さる様になっている。腕に着いている時は打突武器として使える。

・ハイパージャマー

デスサイズの最大の特徴であり長所である武装。特殊な電磁波によってレーダーやカメラを遮断し姿を見えなくする。消える訳ではなく、肉眼で識別可能であるため連携に支障はない。

アビリティレベル上昇率

スピードアビリティ + 50

パワーアビリティ + 30

アーマードアビリティ + 30

ガンダムヘビーアームズ

ミオ・バートン専用MS。トルギスの射撃能力を特化させた。体中に仕込んでいる大量の弾丸と紅い装甲が特徴。まさに歩く弾薬庫であるが、弾の重さが原因で飛行不可能になりホバリング程度しかできなくなった。

ちなみに胸部ガトリング砲の装甲は3重構造になっており、

・砲門を隠す装甲

・バルカンの砲門が付いた装甲

・暴発した際の身を守るための装甲

となっている。

武装

・ビームガトリング

右腕に装着しているヘビーアームズ唯一のビーム兵器。シールドと一体化しておりエネルギーはシールドの中に入っているエネルギーパックから供給されている。着脱可能であり弾切れの時はすぐ外れるようになってる。

・胸部ガトリング砲

ビームガトリング砲より大口径のガトリング砲。大口径のため威力は高いのだが、実弾のため弾の補充に時間がかかる。

・ホーミングミサイル

肩の装甲に8発装填されている実弾のミサイル。自動誘導機能が着いており多少狙いが逸れても当たるようになっている。

・マイクロミサイル

両脚のランチャーポッドから発射される小型ミサイル。誘導性が少ないが、ホーミングミサイルより20発弾数が多い。

・アーミーナイフ

左腕に装着されている唯一の近距離武装。敵に近ずかれた時や全ての弾が切れた時の緊急装備。短く決定打に欠けるためまさに緊急装備といえる。本来は右腕にあったがミオの利き手が左腕だったため急遽付け替えた。

アビリティレベル上昇率

スピードアビリティ	- 10
パワーアビリティ	+ 20
アーマードアビリティ	+ 40

ガンダムサンドロック

ツムギ・ラバーバー・ウイナー専用MS。本来リーオーを元にしたMSを使う予定だったがツムギが怪力だったためヒロが推薦してツムギの専用MSとなった。砂漠の鳥をイメージさせるような肩の装甲が特徴のMS。トルギスの格闘性能と耐久性を上げた。しかし、装甲を厚くしたことによって飛行能力を失った。ちなみにウイングとシェンロンとエピオン以外のガンダムのスラスタはホバリングしか用途がないが、サンドロックのスラスタはクロスクラッシャー（後述）の時には使用されるためそれなりにスラスタの活躍の場がある。

武装

・ヒートショーテル

身の丈程の大型双実体剣。普段は背中に装着されている。サンドロックの主力武器。重さに乗せてMDを上から真つ二つに切り裂く他投げつける事も可能。刃が婉曲しているのは熱による溶断面を広げるため。ちなみにガンダムWのサンドロックは内側で斬っているが、

ツムギは外側で斬っている。

・フラツシュシールド

蛇を模したシールド。普段は左腕についている。防御力を上げるため二枚重ねにした。蛇の目部分には特殊な光を発する装置が備わっていてMDのカメラをしばらくは使用不可にすることができる。

・ホーミングミサイル

両肩の装甲にそれぞれ3つずつ備わっているミサイル。ヘビーアームズのホーミングミサイルと同じ性能。

・クロスクラツシャー

シールドとヒートショーターとスラスターを組み合わせた合体武器。敵に突き刺したり振り回す事で攻撃する。ヒートショーターの重さとスラスターの推進力を合わせる事で破格的威力をもたらす。

アビリティレベル上昇率

スピードアビリティ	- 30
パワーアビリティ	+ 50
アーマードアビリティ	+ 60

マグアナック

前述のリーダーを元にしたツムギ専用MSにそれぞれのメンバーに応じた改修を施したMS。ツムギの教育係兼ボディガードであるマグアナック隊長のヒメコ・クラマの申し出により作成された。

アビリティレベル上昇率

スピードアビリティ	+ 20
パワーアビリティ	+ 20

ガンダムエピオン（未完成）

サワコ・ピースクラフトが脱走のために極秘で作り上げた物。トールギスと同じ飛行能力を備えている。シュナイドの企みに気づいた時急いで作り上げたため、ビームソードとシールドしか武器がない。しかしピースクラフト家が由緒ある軍の家系であり、幼少から武術を学んでいたためあまり問題ではない。色は赤と黒で見た目はまさに悪魔と呼ぶに相応しい姿をしているが、これは自分が世界の悪魔となつて世界の正義であるマリー・シュナイドを倒すという意気込みを現しておりサワコが悪魔のような性格なわけではない。むしろ助手のノドカ・ノイン曰く『家柄をひけらかさず自分にいつも厳しく他人に優しい頼りがいのある憧れの人』らしい。

武装

・ビームソード

カートリッジ式の大型ビームソード。出力が非常に大きく、超合金の壁を豆腐のように切り裂くことができる程。普段は左腰に納められている。

・シールド

格闘戦において取り回しの効く小型シールド。

・スーパーバーニア

トールギスと同じ性能。普通の身体であるサワコには負担が大きく、数回使っただけで肋骨が砕ける危険性がある。

・エピオンシステム

装着した人間を強化し勝つための未来を見せるかわり精神を支配し

てしまうシステム。人類機械化計画の一つとして開発された。

アビリティレベル上昇率	
スピードアビリティ	+ 30
パワーアビリティ	+ 30
アーマードアビリティ	+ 30

機体データ（ピースミリオン）（後書き）

それぞれキャラの名前が少し出てきましたが、なぜそのキャラ？というのもあると思います（オリキャラのカガヤ・セツを除いて）。ですが互いのファンの方々に気を使いつつ自分の思いを書き上げるので何卒よろしく願います。アンケートもよろしく願います。あと性格はノドカだけ、ノインとはまったく別人にしました。理由は私がノインのキャラをあまりつかめていないからです。全国のノインファンの皆様すいません。次回からはいよいよ始まりの物語EPISODE ZERO編に突入します。

梓？「おい、俺のナタクが出てないぞ？」

鯖「勢力別に書いているから、まだ書いてないんだよ。」

梓？「キサマ！！それでは元キャラ2人と扱いが一緒ではないか！！」

鯖「わけがわからないよ……。じゃあまた次回。」

梓？「勝手に話をおわらせるな！！」

謝罪と予告と言い訳（前書き）

リ「なあ、なんでEPISODE REDを載せないんだ？」

ヒ「現在EPISODE REDの製作が難航している。」

リ「はあ！？1ヶ月かかってか？」

ヒ「実際今月に入ってまったく書いてないらしい。」

リ「そういえば、作者が生活の変化に戸惑っちゃまってるからなあ……」

ミ「しかし読者の方々はいつまでも待つてはくれないだろう。」

リ「そりゃそうだ。」

ツ「だから予告を載せようってことらしいの。」

リ「予告書く暇あったら本編書けよ……」

セ「まあ、そうなんだけどね……」

ノ「そんなこと言ってないでタイトルコールいくよ！」

リ「わかった、わかった……」

サ「それじゃ予告……」

全員(？)「スタート！」

梓「俺の出番は！？」

リ「てめえは敵だから無理だろ！！！」

謝罪と予告と言い訳

『けいガンW』

「私は死なない!」

『けいガンW Luster Of Soldiers』

「お姉ちゃん迷子?」

「私は全てを失ってから、ずっと迷子なんだ……。」

「へえ。可愛そう……。私は迷子じゃないんだよ。お姉ちゃんが

いるの。」

「……。」

「はい!」

「くれるの?」

「うん!」

「ツキヒク、そろそろ帰るよ!」

「はあくい。じゃあね、お姉ちゃん!」

「お姉ちゃん、か……。」

『けいガンW Endless Waltz (x) け?????!』

「律!」

「えっ?」

「少し黙っている。」

(黙っている!?)

『けいガンW Desire Maggia (x) 魔?????????』

「行って、マミー!」

「すみません……!」

「はあぁ!」

「死なないでください！」

「…マムもね！」

謝罪と予告と言訳（後書き）

最初に謝罪させて頂きます。

どうもすいませんでしたあああ！

本当は今月中に書き上げようと意気込んでいたのですが、新しい生活に慣れずにいたので小説を書く暇がありませんでした。最近になってやっと慣れてきたので、書いていきます。

こんな作者ですが、頑張って書いていくのでよろしくお願いします。

第1話（前書き）

甘さなんかいらぬ。そのせいで絶望したから。

弱さなんかいらぬ。何も守れなくなるから。

笑顔なんかいらぬ。悲しい思いをするだけだから。

なら何が欲しいの？ 何も要らぬ。

私には何も持つ資格がないから。

家族も…。夢も…。優しさも…。

第1話

私はある島国のある町外れの森にひとりの可愛い妹と両親と4人で暮らしていた。

決して裕福では無かったけど、それでも幸せでいっぱいだった。

たまに妹とケンカはしたけれど、楽しく幸せな日々を送っていた。

毎日妹と外で走り回り、時には森の中を探検することもあった。

こんな日々がずっと続けばいいのにと、8才の私は純粋に願っていた。

だけど、そんな願いが現実で叶えられるはずがなかった。

少なくともこの世界に、そんな幻想なんかありませんでした。

第1話（後書き）

短くてすみません。

これからは貯めた分を少しづつ投稿しようと思います。

半年以上待たせてしまい、申し訳ありませんでした（謝）。

第2話（前書き）

5人の強さは、
ヒイロ>梓猫あましろね>リツ>ミオ>ムギ
になると思います。
ムギが最下位ですが、私自身はムギ派です。

第2話

「ユイ、ウイ。朝よ。起きなさい。」

お母さんの優しく暖かい声に私とウイは起こされた。ふわあゝ、と私は少し間の抜けた声であくびをした。ふと隣を見るとウイはどろやらまだ夢の中のようなようだ。

しょうがないなゝと言いつつも私はこうして姉として妹を起こすのは嫌いじゃない、どちらかと言えば好きだ。

いつも起こしていると、ああ自分は姉なんだな、と少しだけ優越感に浸れるからだ。

「おねえちゃん、おはよう。」

「おかあさんがあさだって。」

「もうあさなの？ああ、いいゆめみてたのになあ。ふわあゝ。」
ウイもさっきの私と同じ間の抜けたあくびをした。

こうしてみていると本当に姉妹なんだと実感させられる。

私は頬を緩ませながらそんなウイをじっと見つめていた。

「おねえちゃん、どうしたの？わたしのかおなんかじろじろみて。」

「なんでもないよ、いこつ！！」

「うん！！」

私はウイと一緒に自分たちの部屋を出るとお父さんとお母さんがいるリビングへと向かった。

リビングにはお父さんが椅子に座って新聞を読んでいた。

お母さんは台所で朝食の準備をしている。

私とウイは自分専用の椅子に座った。

「ユイ、ウイおはよう。」

「おはよう、おとうさん。」

「あはは、二人とも相変わらず眠たそうな顔してるね。」

「そうかなあ？」

「そうだよ。朝はもっとシャキっとしないかね！！」

私のお父さんは優しくて頼りがいのある人だ。

仕事が忙しいらしくたまにしか帰ってくれないけど、それでも大好きなお父さんだ。

「わたし、そういうのがてだなあ。」

「そんな事じゃいいお姉ちゃんになれないぞ。」

「でも…。」

「そつえば、おとうさん！」

私とお父さんが話していると、ウイが突然話に割り込んできた。

「なんだい、ウイ？」

「まえからおもってただけど…。」

「どうしたの？」

「わたし、“がっこう”にいきたい!!！」

「……。」

学校かあ…。」

勉強を同じ年の子達と一緒にする場所ってしか聞いたことがないけど、楽しいのかな？

「こら、ウイ。だめよ、そんなこと言っちゃ！」

私が学校のことを想像していると、お母さんがウイを叱っていた。どうやらお父さんの顔が悲しい顔になっていたことに気が付いたらしい。

「ごめんね、二人とも。僕が甲斐性無しなばかりに…。」

「いいの、わたしがわるいの。おとうさんのことかかんがえなかったから。」

「ウイ…。今は無理だけどいつか行かせてあげるから。それまで待つてて。」

「おとうさん…。」

ウイが涙ぐんでいるとお父さんはウイの頭をそつと撫でた。

「さあ、お母さんの手料理食べて元気だそう！」

お父さんはいつもの笑顔になった。

そうこうしているうちにお母さんが机に朝食を並べていった。

私のお母さんは学校に行けない私達に勉強を覚えてくれる優しい人だ。

お父さんがお母さんと結婚したのも納得がいく。

「それじゃあ、いただきます!」

「いただきます!」「」

こうしていつも通りの食事が始まり、そして何も変わらない一日が始まるはずだった。

。けど、この時は今日が最低で最悪な一日だと知る由もなかった。。

第2話（後書き）

どうでしたか？

最初の方ですが、コメントを頂けるとありがたいです。

アンケートの方もよろしくお願いします。

できるだけ早く更新できるように頑張ります！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6514q/>

新軽音戦記けいガンW《ウイング》

2012年1月9日05時47分発行